

山形県男女共同参画センター

CHERIA チェリア

vol. 36
2013.Spring

【Contents】

▶特集1

- 対談「自分らしい生き方・働き方・暮らし方」

▶平成25年度

山形県男女共同参画センター事業のご案内

▶事業報告

- 男女共同参画地域講座

▶団体紹介

▶チェリア・インフォメーション レポート

- 最上地域づくり応援団
「キラッとO～RA☆DA」結成!



「自分らしい生き方・働き方・暮らし方」

仕事、家庭、地域活動を自分の置かれた立場や環境の中でバランスよく両立させていく...それは誰もが願うこと。しかし、女性の置かれている現状を見るとたくさん課題も。そこで、各分野で、自分らしい生き方を実践されている方々に集まっていたいただき、女性の生き方・働き方の現状と課題や、理想像などについて語ってもらいました。



鈴木里美さん
山形労働局雇用均等室 室長
東京生まれ。昭和56年、厚生労働省に入省。平成23年7月に山形に赴任。

〔高木〕充実した生き方をしていくためには仕事と家庭をうまく両立していく。「ワークライフバランス」が大事なポイントです。バランスのとれた社会を築くうえで私たちが暮らす山形の現状はどうなのか。山形をもっと元気にしていくために、どうしていけばいいのかわ。男性だけでなく女性もどんな力を発揮していけばいいのかわ。そのご意見をいただきたいと思います。まずは、ご自身の体験からお聞かせください。

〔鈴木〕私は男女雇用均等法前の世代。就職活動をした時、昨日まで肩を並べていた男子学生がもう少資金より3〜5万少ない。勤務時間も変わらないのになぜか、私にとっての「最初の社会の壁」でした。国家公務員になり、当時の労働省での仕事は男女



雇用均等法を策定する部署。自分が就職するときに経験した障害を取り除いてほしいと思います。職場では「女だから」と差別はなく、むしろやらなければいけないことが山積み。出産や産休を取ることにしても周りの風当たりもありません。お互い様ですから。ただ、育児休業や介護休業が制度化される前だったので子育ても産休だけ、親の介護も年休を使ってしまう時代。その経験を通して制度の必要性を感じたので、今の仕事に誇りを持って取り組んでいます。

〔小幡〕制度的に恵まれている今、少子化、お母さんが働けない、再就職ができないといった問題に対して甘いな、という思いはありませんか？

〔鈴木〕それは無いですね。私の前の世代は女性の権利なんて存在しない時代を過ごしてきました。でも、「だからあなたも」と言われたら抵抗ありますよね。次世代の人たちに「私は育児休業なかったのに甘えてる」と言う必要はなく、現状の中で今ある社会の様々な制度を活用してもらい、どう支援していくかだと思っています。

していることがあります。意識を変えていかなければならない方向に歩んでいく。長年働いて会社の大事なことを任されている立場の中、高年男性にしてみればなかなかに難しい。

〔高木〕女性に門は開けてくれたものの、高度成長期の「家のことほ心配せず男性は仕事だけやればいい」という考え方はそのまま。「女性も働きやすくなる」職場の仕組みも変えていくという方向に進んでいってほしい。

〔鈴木〕高度成長期のように日本の経済が右肩上がりという時代ではないのに、企業も男性も女性も当時の幻想に今も縛られて長時間労働は無くなる。「賃金が上がらないなら、その変わり労働時間を短時間に調整してみんなで働いていこう」と頭を切り替えていかなければならないですね。

〔小幡〕夫が長時間労働しているから妻が働きに行けないのかなと思います。子どもが小さい場合、他に協力者がいないとフルタイムの共稼ぎは難しい。国民全体の意識が変わらなければなかなかな気がしません。



遠藤智子さん
山形大学大学院理工学 研究科勤務
川西町出身。「やまがた里の暮らし推進機構」運営協議会委員。大豆を使った「ソイキャンドル」を作り地域活動を行っている。

〔高木〕意識改革を待っているよりも、制度を変えればその制度に基づいて動いていくことで意識も変わっていくと考えたほうがいいのかと思います。

〔鈴木〕仕組みとしては働きやすい方向に変わっています。県内でも、専門的な仕事をしている会社では従業員の生活と仕事とのバランスがとれるようにがんばっているところがあります。ある程度個人の事情に応じた働き方を柔軟に認めないと、優秀な社員は離れていきます。そのためには企業努力が必要になってきますね。

〔高木〕女性もいろいろな形で活躍してほしいので持っている能力を大いに発揮していただきたいと思うのですが、山形の女性の印象は？

〔小幡〕控え目な女性が多い印象を秘めていると思う。山形に住んでみると食べ物はおいしいし、素敵な場所はあるし、景色はいいの、それをアピールしないですね。そして、女性も活躍している印象があります。

〔高木〕会社の中で管理職は少ないし、町内会長やPTA会長も男性。なかなか管理的な立場に入る方が少ないですね。

〔遠藤〕恥ずかしいが、職場は多いと聞かれます。控え目な女性が置賜が多いと聞かれます。

〔高木〕美德でもあり、もうちょっとがんばってほしいというところもあるのかな。

〔高木〕小幡さんは結婚を機に退職されたけれど、仕事をしていって充実していたことや女性ゆえの大変さ等ありましたか？

〔小幡〕勤めた2社では給料も男女平等。深夜残業も普通で、毎晩のようにタクシード帰宅。不規則な食生活。でも、認めてもらえやりのある毎日を送っていました。ロールモデルになる女性はいなかった。長期的な視点は持てず、今頑張らなきゃという瞬間だけで生きていたような気がします。転職を考えていたこともあり、結婚を機に会社を辞めました。

〔高木〕女性が多く、お互い様という意識で子育てができた鈴木さんの場合と比べると随分違いますね。ですが、ディーセントワーク（働きがいのある仕事）と言われるように、仕事はやりがいがあるからこ続けられるんでしょね。遠藤さんは、今の職場の前にはアパレル関係のお仕事をされていたか？

〔遠藤〕はい、アパレル会社でパターンナーをしていました。グルーピングを含め300人くらいの会社で、男女の賃金差がありますが、結婚して子どもがいても働き続ける女性が多い。私を含めた2名でコンピュータ支援設計を担当していました。ブランドからデザイナーが送られて来て縫製用のパターンを作りパ

〔鈴木〕全国的にみても山形の女性は勤続年数が長く、結婚・出産時期にも辞めないで働くという特徴があります。でも、管理職にならないう企業を引張っていく女性は、残念ながら少ない。企業側に、女性の管理職登用について尋ねると「女性の場合は5時に家に帰って家族の世話や夕食準備をしなければならぬ。そんな人に残業の多い管理職なんて頼めない」「管理職をお願いしたら、会社を辞めてしまつ。辞めてほしくないから管理職にしない」などの返事も返ってきます。控え目なことに加え、地域の中で声を上げていって周りの目やしがらみもあります。でも、それに甘んじてしまつと会社側もいつまでたっても気が付かない。それはお互いに損なこと。長年がんばりながら動いている人たちは次の世代を育てていく責任もあると思いますね。

〔高木〕そのように育てていく影響を考えると、それは良いのですが、当事者としては自分だけの問題で終わってしまつ可能性もありますね。

〔高木〕将来を見据えてこれからどのような生き方や働き方をしたいか、お聞かせください。

〔小幡〕今は子育てを含め、今しかできないことを楽しもうと思っています。いろんな意味で今は準備期間。消費者であり生活者でもあるので、その中に身を置いていく限りはブランドだと思わず、いろんな感覚を磨きながら生活していきたいですね。

〔遠藤〕大学勤務という、経済基盤を持ちながら、大豆のキャンドル作りを通して地域に関わっていきなさい。地域が元気になるから、人々も元気になるように、人々が元気で



〔座長〕高木直さん
山形県男女共同参画センター 館長
山形大学地域教育文化学部教授
大阪生まれ。35年前に山形大学に赴任以来、山形に住む女性の働き方を見つめ、様々な角度から提言している。



小幡直子さん
山形県男女共同参画センター 広報委員
京都生まれ。東京のIT企業に就職、大阪の教育業界への転職を経て、結婚を機に退職。昨年8月夫の転勤で山形へ。二児の母。

ソコンに取り込み、裁断・縫製・出荷という連の作業を2〜3週間で行わなければなりません。激務で体調を崩してしまつたの自分の中に大きな責任感があり「私が辞めたらこの会社は駄目になる」と思ったことも。「仕事を辞めないと治らない」という医師の言葉に退職を決意しました。私の代わりができる人はいないと勝手に思い込んでいたけれど、結局辞めても問題なく会社は動いていくんですよ。今は、大学に勤務しながら、大豆を使ったキャンドル作りを通して地域で活動している。ワークとライフも充実しています。

〔鈴木〕男性が育児休業を取らない理由のひとつに、会社という組織の中の「人」であることに気が付かず「自分が抜けたら...」に捕われ

ないと地域も元気にならない。私自身、家族にも地域の人にも、そして土地にも育てられたと思っているので恩返しをしていきながら成長していきたいですね。

〔鈴木〕働くことは経済的基盤です。制度面で今の方たちはやろうと思えばできる環境に置かれているわけですから、山形の女性には歩み出してほしいですね。そのためには、親世代が足を引っ張らないでほしい。例えば、嫁が出産して夫である息子が「育児休業を取りたい」と言った時に反対したり、自分の娘が就職すると言った時に「そんな会社ならば勤めないで、家で花嫁修業してれば」「子どもができたなら辞めれば」と言ってしまう。高度成長期に働いてきた当時の価値観ではなく、若い人たちの今の生き方を応援していただきたいですね。

〔高木〕制度面においても着実に準備されてきて昔と比べたら働きやすいのかも少し増えています。そのため、若い人たちは情報をキャッチして活用できるものは活用していくという勉強も必要になってくるでしょう。自分の人生ですので良い形で歩んでいただけたらいいなと感じました。貴重なお話をいただき、ありがとうございました。



展開いたします。みなさん、ぜひご参加ください!

■チェリアde カフェ開催

様々な人たちとの交流の場として、原則毎月第2水曜日10時～15時まで、スペースを開放します。毎回、実行委員が企画した楽しいイベントも、お茶つきで実施しています。子ども連れもOK。



【対象】どなたでも(子ども連れも大丈夫です)

【会場】団体・グループ活動室、託児室(遊学館2階)

【参加費】原則無料(材料費をいただくことがあります)

☆今年度は、村山地域・最上地域・置賜地域・庄内地域での開催を予定しています。詳しくはチェリアまで

■登録団体ネットワーク会議

年2回開催

登録団体の方たちの交流とチェリア事業をより良く進めるための会議です。

【対象】チェリア登録団体

男女共同参画週間記念事業

6月23日～29日の記念週間に、男女共同参画社会づくりを進めるための啓発事業を県・市町村、女性団体等と協力して各地域において実施します。

また、遊学館1階ギャラリーにおいて男女共同参画社会づくりを進めるためパネル展示等を行います。

■男女共同参画社会推進に関わるパネル展示

【期 日】6月23日～29日の記念週間

【会 場】遊学館1階ギャラリー

パープルリボンプロジェクト

私たちのまわりから暴力をなくすことを目指して、私たちの意志を表し、暴力防止の理解を深めるためにDV防止期間にパープルリボンプロジェクトを県内全市町村と一緒に取り組みます。

■パープルリボンプロジェクト&パネル展示

暴力ゼロの願いをこめてパープルリボン結び暴力防止の啓発を行います。

【期 日】

DV防止期間に開催予定

【会 場】

遊学館1階ギャラリー



地域連携強化事業

■地域男女共同参画施設連携事業

県内市町村に設置されている男女共同参画施設情報の共有を図り、連携を強化するため情報交換会を開催します。

■男女共同参画連携会議

県内の各市町村・総合支庁と連携を図り地域での男女共同参画の取組みの拡大と各種施策・事業の効果的な展開を県とともに図ります。

■地域男女共同参画ネットワーク活動支援

地域における女性団体等によるネットワークの活動と促進を支援します。

相談

悩みの相談・研修会

■相談

【一般相談】(休館日を除く)

火・水・木・金 …… 9:00～17:00

土・日・祝日 …… 13:00～17:00

【専門相談】

☆法律相談

毎月第2・4木曜日 14:00～16:00 (無料 要予約)

☆こころの相談

毎月第2・4土曜日 14:00～16:00 (無料 要予約)

相談専用電話 **023-629-8007**

■再就職のための「キャリアに関する個別相談」

結婚、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞め、再就職や起業等を考えている女性や、再就職、転職や起業等を希望する男性への再チャレンジを支援するため、キャリア・カウンセラーによる個別相談と体験学習を行います。

【個別相談】原則として毎月第1土曜日

【13:00～ 一人50分程度 無料・要予約】

【申し込み先】電話 **023-629-7751**

■こころの研修会

相談事業から見てくる悩みごとに関するテーマをとりあげ研修会を実施し、問題解決への手がかりをともに考えます。

【期 日】8月上旬(予定)

【地 域】最上地域・庄内地域

【講 師】森岡由起子氏(大正大学人間学部教授)

■相談機関実務者研修会

相談機関で相談に関わっている実務者を対象に、「男女共同参画の視点での対応」を学び、活用していくための研修会を開催します。

【期 日】9月(予定)

【対象者】相談業務実務者

■相談機関初任者研修会

相談機関で相談に関わっている初任者を対象に、「男女共同参画の視点での対応」を学び、活用していくための研修会を開催します。

【期 日】6月(予定)

【対象者】相談業務初任者



平成25年度 山形県男女共同参画センター事業のご案内

25年度も男女共同参画社会を進めるための事業を広

学ぶ

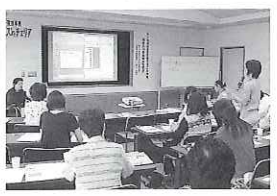


人材育成事業

■女性リーダー育成事業

★チェリア塾・専門コース

社会ニーズや女性の役割りを踏まえ、男女共同参画リーダーの育成、地域社会活動キャリアの育成、ビジネスキャリアの育成をめざし、専門コースとして3コースを開講します。



【期 日】5月中旬より開講予定

【会 場】山形県男女共同参画センター

*詳しくはチェリアまでお問い合わせください。

★チェリア ファシリテーター出前講座

地域で活動する団体、教育機関などで行われる「男女共同参画」の勉強会や研修会などにファシリテーションの手法を学んだチェリアファシリテーターの出前講座を行います。

随時*詳しくはチェリアまでお問い合わせください。

■講師派遣事業

団体等が実施する男女共同参画に関する講演・研修会等に対し講師を派遣します。または、実施団体が要請した講師にかかる経費を助成します。(随時、10件程度。派遣経費は講師謝金及び旅費に当てる経費の内30,000円を限度に助成)

■研修派遣事業

県外で行われる男女共同参画に関する研修会やセミナー等へ参加する方を支援します。(2名程度。研修旅費の3/4助成。30,000円を限度に助成)

*助成の対象となる事業

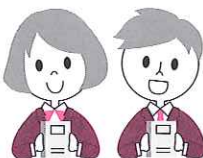
- ・派遣先は主に国立女性教育会館(ヌエック)主催事業で、研修派遣の趣旨にそったもの。
- ・その他、予算の範囲内で理事長が必要と認める全国レベルの研修会、会議など。

■男性セミナー

男性にチェリアを知っていただき、参加しやすい男女共同参画事業セミナー。働く、生活する、活動する男性を支援する講座を開催します。

■中学・高校生のための男女共同参画学習ノート配布・普及

中学生に男女共同参画をより身近に理解してもらうために、学校教育と連携して作成した学習ノートを配布し、その活用を進めます。



■男女共同参画地域講座

地域で活動している団体・グループや市町村と連携して講演会等を開催します。今年度は次の市町村で実施する予定です。

昨年度実施した内容はp6に掲載。

〔村山地域〕天童市
〔最上地域〕舟形町
〔置賜地域〕南陽市
〔庄内地域〕鶴岡市



企画する

県民企画事業

次の条件を満たす講座、セミナー等の開催や、各種調査・研究など、県民の学習機会を広げる企画を募集します。応募後、プレゼンテーションで説明、発表いただき、優れた企画の提案者に対し、実施にかかる経費を助成します。

■男女共同参画促進事業

〔企画条件〕

- A.女性及び男性の意識改革につながるもの
- B.女性の社会参画促進に役立つもの
- C.女性の人権についての問題解決につながるもの
- D.男性の家事・育児・家庭教育への参画促進につながるもの

〔助成金額〕

1事業につき25万円
(事業の3/4を助成)を上限とします。

〔資格要件〕

県民3名以上で構成される、営利を目的としない等の条件を満たす団体

〔募集期間〕平成25年4月中旬より

〔プレゼンテーション及び審査会〕

6月中旬

*詳しくはチェリアまで



つながる

団体・グループ活動支援・交流事業

■チェリアフェスティバル山形2013

チェリアを利用する団体を中心となって企画運営するフェスティバルです。

【期 日】平成25年10月20日(日) 予定

【講 師】未定

【内 容】講演、ワークショップ、寸劇、フリーマーケット、お茶席、展示など

【対 象】どなたでも



2012年フェスティバルより▲

男女共同参画地域講座'2012

最上地域

〔期日〕平成24年11月23日(金)
〔会場〕最上町中央公民館
〔内容〕講演

「いのちをつなぐ言葉の力 ～東日本大震災を乗り越えて～」

〔講師〕作家/保護司/
認定特定非営利活動法人ロージーベル理事長
大沼えり子 氏

11月23日最上町中央公民館において、最上地域講座が開催されました。講師は、作家や保護司、シンガーソングライターなど多くの分野で活躍する大沼えり子さんです。一昨年3月11日に名取市で被災した大沼氏。講演では、自らの被災の経験や、少年院に入る子ども達との関わりをもとに、「この震災で亡くなった命は決して無駄じゃない。災害の教訓と復興への願い、こんなに日本中がひとつになれたことに無駄なんてない。」「子どもたちはみんな、生きなければ良かったと生まれてくるわけがない。子どもたちの笑顔のために、大人はみんな優しい手を差し伸べてほしい。相手を思いやってほしい。」など、『命』の大切さについて、熱く優しく語られました。講演の最後には大沼さんが制作している少年院に向けたラジオ放送に聴き入り、そこから伝わる深い愛情に、感動に包まれた会場からは大きな拍手が贈られました。



庄内地域

〔期日〕平成24年6月16日(土)
〔会場〕庄内町文化創造館 響ホール
〔内容〕講演

こころの居場所・育つ場所 ～えほんも、本も、図書館も～

〔講師〕作家 落合恵子 氏

庄内地域講座では、約300名の参加者のもと第1部として男女共同参画啓発の活動をしている団体による寸劇発表を行い、第2部として、落合恵子さんの講演会を開催しました。

寸劇では、親子読書を題材にして普段の生活の中で男女共同参画を実践していくことを啓発しました。講演では、絵本の読み聞かせも交えながら男女共同参画の大切さに触れられ、参加者からは「もっと女性が声を出し、社会でも家庭でも自由に自己表現をすることが認められ、受け入れられる社会作りが必要」との感想が寄せられました。

また、講演終了後には、講師のサイン会と並行して町内福祉施設からの協力をいただき、施設で作られたパンやクッキーなどの物販を行い、障がいのある方々と来場者との交流が持たれ、いきいきとした表情を見ることができました。



村山地域

〔期日〕平成24年9月23日(日)
〔会場〕寒河江市ハートフルセンター
〔内容〕トークショー/トークセッション

・トークショー「働く”女子”のいま ・トークセッション「男女共同参画ってな～に？」

今年度の村山地域講座は、寒河江市ハートフルセンターを会場に、日本テレビアナウンサーの馬場典子氏を招いて、「働く”女子”のいま」をテーマにトークショーを開催しました。馬場さんからは、ロンドンオリンピックでの女性の活躍や、自身のスポーツキャスター時代の苦労話などを通して女性が社会に認められることの厳しさや、社会で活躍することの必要性を語ってくれました。

また、第2部として、地元若者を含む3名の若者と一緒に、若者が抱えている男女共同参画に対する考えや結婚観、結婚後の生き方などについてトークセッションを行いました。

当日は、山形放送アナウンサーの小坂憲央氏もコーディネーターとして加わり、アナウンサーならではの切り返しで来場者にも質問するなど、会場を一体とした講座となりました。260名の来場者とともに、みんなで男女共同参画について考えるきっかけづくりになりました。



置賜地域

〔期日〕11月12日(月)～19日(月)
*8日間16回講座
〔会場〕パワーセンター白鷹 他17会場
〔内容〕講演

男女共同参画・置賜リレー講座 ～弁当づくりから進める男女共同参画～

〔講師〕～子どもが作る“弁当の日”提唱者～ 竹下和男 氏

置賜の7市町で結託し、置賜の7市町をリレー方式でまわるというスタイルで実施した置賜リレー講座。講師の竹下和男さんには8日間で16回というハードスケジュールの中、弁当づくりを通した男女共同参画をメインテーマにご講演をいただきました。

自らが教員時代に現場で撮影した写真を交えながらの実践に基づくお話は、大変わかりやすく、また、各会場の参加者の心に響く内容となりました。ある会場では、参加された教育長がいたく感激し、「弁当の日をやるぞ!!」と各校長を説得中とのこと。

7市町18会場の延べ参加者数は2,711人。講師の竹下さんからは「人使いが荒い地域」と思われたかもしれませんが、多くの方に貴重なお話を聞いていただける機会となりました。



CHERIA 活動団体紹介!

チエリアでは団体・グループ登録制度を設けています。随時受付中/詳しくはチエリアまで!

人と人をつなぐ「信頼の心」を大切に

当NPO法人は、山形大学医学部、東京大学、筑波大学の三学共同により開講された市民後見人養成講座の受講生が中心となって、一昨年10月に発足し、山形県全域で活動しております。

成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどで財産管理や日常生活に不安な方を法のもとに保護し、支援する制度です。この制度を広く知ってもらうために、県内各地で入門講座や、将来の方が一の時に活用できる「エンディングノート」の書き方講座などを、数多く開催してきました。真剣な聴講者の方々に接し、超高齢化社会の中で、この制度への関心の高まりを実感しているところです。

また、市民の立場で、無料相談や支援事業も行っております。私たちは、市民の目線から共に考え、共に支え合い、人と人をつなぐ「信頼の心」を大切に、お役に立ちたいと考えております。お気軽にご相談下さい。



お問い合わせ先 「(特活) やまがた市民後見サポートセンター」

■事務局長 沓澤晋作 ■住所 〒990-0832 山形市城西町1-7-19 山形県NPO支援センター2F
■TEL/FAX 023-645-6040

ラクに楽しく“食べる”を支える【介護食の窓口】 ゆにしあ

「むせる」「飲み込みにくい」などのような、食べる・飲み込む機能が低下し、肺炎や窒息を起こす高齢者の方が増えています。ゆにしあでは、そのような自宅で療養している高齢者の方の介護をしているご家族が、無理なく介護ができるように、ご自宅にお伺いして、食事の食べさせ方や簡単にできる調理方法・市販の介護食の選び方や使い方などの個別トレーニングを行っています。

介護をしているご家族は、突然の状態変化で、「どんな食事を出していいのか?」「どんな風に食べさせたらいいのか?」などと、誰にも相談できずに悩んでいることがあります。

私たちが活動を始めたのも、老人ホーム勤務時代に、同じような悩みを持ったご利用者様との出会いがあったからです。「自宅に来て、頑張っている妻に食事の作り方を教えてほしい…」そんなご利用者様の切実なお声をお伺いし、地域に飛び出す決意をしました!

現在365日3食の食事のお世話は、介護において大きな負担となっております。“食は楽しみ”と言いますが、サポートを通して、ご家族が療養者様を大切に思う気持ちがあつてこそ、初めて“おいしい”と感じられるのだと実感しています。ご家族がいつまでも笑顔で、療養者様との大切な時間を過ごせるように、お手伝いしていきたいと思っています。

介護をしているご家族に「一人で悩まなくて大丈夫」ということを知っていただくためにも、皆さまからの情報発信をお願いいたします。

ご自宅での食事の作り方のトレーニング中▶



お問い合わせ先 「栄養支援室 Uni-Sia」

■担当者 池田百合子/秋葉恵理

■住所 〒990-0007 山形市沼の辺町10-26

■TEL/FAX 023-666-6244

Information

突撃レポート 最上地域づくり応援団 「キラッとO～RA☆DA」結成!



「キラッとO～RA☆DA」のはじまり

山形県が地域の男女共同参画活動を活性化しようと、平成24年8月～10月の期間、最上地域の女性団体に呼びかけ、最上地域にある課題を掘り起し、解決にむけてアイデアを生み出す勉強会を開催。10月20日には、新庄市ゆめりあにおいて解決策を具現化するため、地域づくり交流会「女性から輝く最上の地域づくりはじめの一步」で5つのアクションプランを発表しました。その後、勉強会に参加したメンバーを中心に最上地域の男女共同参画活動を推進する、地域づくり応援団体「キラッとO～RA☆DA」が結成されました。

講演会「地域でまん中世代がもっと輝くために」

平成25年2月25日、新庄市市民プラザにおいて、地域づくり応援団体「キラッとO～RA☆DA」の設立を記念し、「地域でまん中世代がもっと輝くために」と題した講演会が開かれました。講師は山形県男女共同参画センター金澤和子男女共同参画アドバイザーです。大雪で



交通機関も混乱する中、会場には40名の方が参加。「まん中世代」の知恵やマンパワーを集結し、育児や介護支援、地域振興の課題に取り組んでいこうと、寒波も吹き飛ばす、熱気に満ちた場が作られていました。



地域づくり応援団体「キラッとO～RA☆DA」

「私（おら）も私たち（おらだ）も一人ひとりが主役!オーラを出して地域で輝こう」を合言葉に、最上に住む人みんなが輝き、助け合える社会の形成を目的に、年代・性別に関係なく気軽につながりながら最上の地域づくりのために活動を行います。また、男女共同参画分野を中心とした、地域課題への解決や地域づくりにおいて、最上地域の男女共同参画の拠点的功能を果たすことを目指しています。*応援団に関するお問い合わせは、山形県最上総合支庁 子ども家庭支援課 0233 (29) 1245へ



編集後記

対談は緊張したけれどとても励みになりました!この出会いに感謝。雪国は、春になったら…と考えるのが何倍も楽しいですね! [直子]

今回の対談を通して、輝いている女性をご紹介することができました。山形には自分の思いをカタチにしようと、気負わず、一歩ずつ進んでいる女性が多いな～と、いつも感じています。 [昌子]

この季節になると何か新しいことを始めたくなります。春生まれだからかな!?広報委員として、講演等の取材をしながらたくさん学んでいます。 [安]

山形県男女共同参画センター チェリア

〒990-0041 山形市緑町1-2-36 (遊学館 2階)
TEL 023-629-7751 FAX 023-629-7752
相談専用電話 023-629-8007
URL <http://www.yamagata-cheria.org/>
開館時間 午前9時～午後9時
休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜、年末年始
平成25年3月発行
編集発行 ● (公財) 山形県生涯学習文化財団



【アクセス】

- JR山形駅から
バス 市役所経由路線バスで市役所前下車、徒歩5分
タクシー 約6分
徒歩 約25分
- 自動車
山形自動車道山形蔵王ICから約10分。県営駐車場をご利用ください。
(入退館時に駐車券を遊学館1階の総合案内へお出しください。)
ご利用時間に応じて駐車料金が割引になります。